

特別支援教育便り



特別支援コーディネーター

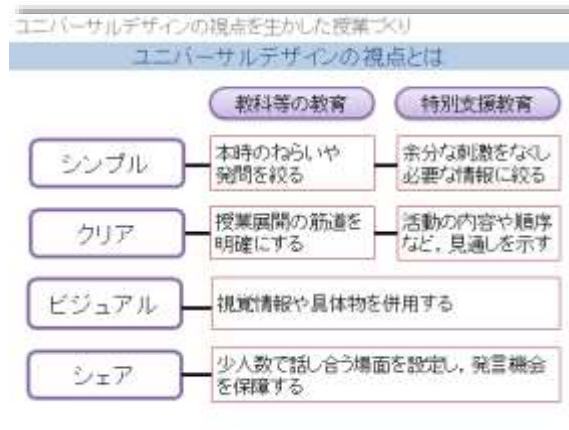
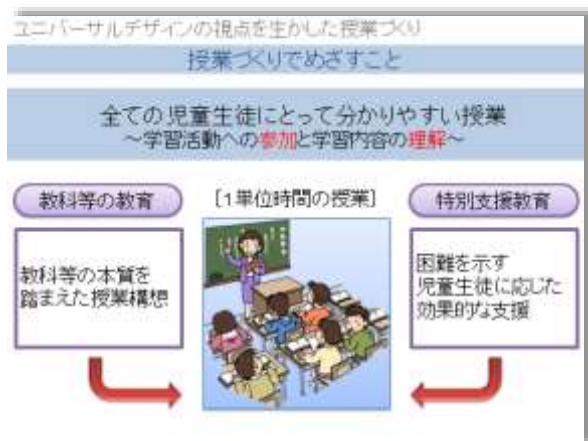
H30.11.22(金) 文責 中山 幸江

こんにちは、今年もあと1ヶ月あまりとなりました。いつも特別支援教育にご理解とご協力をいただき、有難うございます。今回は、「ユニバーサルデザインの視点」と「引き継ぎシート」について、紹介をいたします。

「ユニバーサルデザインの視点」について

「ユニバーサルデザイン」とは、Universal(万人(共通)の、万能の)とDesign(設計、計画)という2つの英単語が合わさったもので、訳すと「すべての人のためのデザイン」という意味です。そのアルファベットの頭文字をとってUD(ユーディー)ともいいます。「ユニバーサルデザインの視点」とは、「全ての生徒が学習内容をよりよく理解できるように支援するためのポイント」です。授業づくりにおいては、本時のねらいをしぼる「シンプル」、授業展開の筋道を明確にする「クリア」、視覚情報や具体物を使いながら説明する「ビジュアル」、少人数で話し合う場面を設定する「シェア」という視点をもって、さらに個別の配慮も考え授業実践をしています。具体的には、特別支援教育においては、生徒が学習に集中して参加できるように余分な刺激をなくすこと(シンプル)や活動の内容や見通しを示す(クリア)、言葉による情報を絵や写真などの視覚情報で示す(ビジュアル)ことを含め、個別対応で細かな支援が行われてきました。

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりは、「課題がある生徒にとって分かりやすい授業は、すべての生徒にとってもわかりやすい授業である。」という考え方に立ったものです。



芦屋中学校の各教室では、授業の基盤である教室の掲示物をシンプルにし、棚など学習用具を入れる場所が決められていて整理整頓ができています。また、各教室に「学習のきまり」(発表の仕方、学び方など)を掲示しており、教室環境整備に努めています。



話し合いの場面



すっきりとした教室の前面

「引き継ぎシート」について

小中学校の特別支援学級の生徒は「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」さらに「引き継ぎシート」を作成します。それは、特別支援学級の生徒たちが新しい環境でスムーズに生活できるよう、情報を伝達するためのものです。また、通常学級の生徒も必要であれば作成します。



保護者の承諾が
必要です！

先日、高校の先生とお話する機会があり、「引き継ぎシート」など高校側がきめ細かな情報を求めているというお話がありました。実際、高校は義務教育ではなく全ての生徒に小中学校のようなきめ細かな配慮があるわけではありません。しかし、特別支援教育は小中学校と同じく進められており、支援が必要な生徒に対して「個別の教育支援計画」の作成や「個別の指導計画」、「引き継ぎシート」に沿って支援を行う体制が整えられているそうです。その後の環境で、自分の特性、例えばコミュニケーションが苦手だったり強いこだわりがあったりと、働く上で支障を感じることを周囲の人に理解してもらうことはとても大切なことです。今後も芦屋中学校では「支援の引き継ぎ」を大事にしていきたいと思っています。尚、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」、「引き継ぎシート」に関して詳しいことを知りたい方、相談や質問がある方は、2学期の保護者会等いつでも構いませんので担任または特別支援コーディネーターに相談してください。

～トピック 9月 シャベリ場～

9月に、3年生の生徒と芦屋町の地域の方々がふれあいの場を持つ「シャベリ場」が体育館でありました。特別支援学級の生徒は「どんなひとときになるかな?」「上手くしゃべれるかな?」と、期待と不安があるように見えました。しかし、体育館から帰ってくると笑顔満開で、「楽しかった～しゃべり足りなかった!」と感想を次から次へと話してくれました。さらに、交流学級の生徒も、同じように笑顔で、「楽しかった～しゃべり足りませんでした～!」と感想を言っていたのがとても印象に残りました。きっと交流の中で、おしゃべりをする人たちや司会進行をする方など、関わる方々が真摯に向き合い、お互いを受け入れ、細やかな心遣いがあったことで、心がホットになり、和やかなひとときになったのだと思いました。



「シャベリ場」の様子